

中央材料室における洗浄効果の検証

清水須美子^{1,2)*} 岡部智子^{1,2)} 木下まり子^{1,2)} 井上一彦^{1,3)}

1) 国立病院機構鳥取医療センター ICT

2) 同 看護部

3) 同 神経内科

Validation of cleaning efficiency in the Central Sterile Supply Department

Sumiko Shimizu^{1)*}, Tomoko Okabe¹⁾, Mariko Kinoshita¹⁾, Kazuhiko Inoue¹⁾

1) Infection Control Team, National Hospital Organization Tottori Medical Center

2) Department of Nursing, National Hospital Organization Tottori Medical Center

3) Department of Neurology, National Hospital Organization Tottori Medical Center

*Correspondence: sumiko@tottori-iryu.hosp.go.jp

要旨

鳥取医療センターでは、現場での一次消毒・洗浄を廃止し、中央材料室（中材）で再使用物品の一括洗浄を行っている。しかし、洗浄評価は目視判定に頼っており、客観的な評価を行っていない現状がある。現在の中材で行っている洗浄工程が適切か否かを検証することを目的に、間接的・直接的洗浄評価インジケータを用いて鋼製小物の洗浄評価を行った。間接判定結果は良好であり、ウォッシャー・ディスインフェクターに不具合のないことがわかった。また、直接判定結果では、鑷子の洗浄不良は認められなかったが、鉗子は柄の部分とボックスロックに洗浄不良が認められ、予備洗浄剤の使用方法についての教育の必要性、ならびに器材の形状に応じた洗浄方法を考えることが重要であり、現在の洗浄方法の見直しを行なっていく必要があることがわかった。今後の課題として、医療用再生物品を清潔かつ安全に提供するために、中材の洗浄方法についてマニュアル化し、客観的な洗浄評価を定期的に行っていくことが必要である。鳥取臨床科学 1(1), 221-225, 2008

Abstract

Pre-cleaning and pre-disinfection of reusable instruments in patient-care areas has discontinued in the Tottori Medical Center and began cleaning and disinfection in the Central Sterile Supply Department (CSSD). However, there had been no objective, scientific evaluation of cleaning efficiency in our hospital. In order to validate whether the present process of cleaning in the CSSD is adequate, objective direct and indirect evaluation of cleaning efficiency using some indicators was employed. In the indirect evaluation, the efficiency of Jet Washer disinfectant (WD) was found to be adequate. In the direct assessment, tweezers were efficiently cleaned, however, debris was found on the handle and box-lock part of forceps. As a consequence of this monitoring, we found that proper training on how to use cleaning detergents and development of cleaning methods depending on shape of the surgical instruments are necessary and we need to review and revise the present process of cleaning. In order to supply sterile and safe reusable instruments, we addressed the needs to establish an adequate cleaning protocol

Key Words: 中央材料室, 洗浄評価, 洗浄効果; central sterile supply department (CSSD), assessment of cleaning, cleaning efficiency

はじめに

洗浄評価を日常的に行い、洗浄が確実に行われているかどうか検証することは、洗浄～滅菌保障を確実なものにし、再使用物品を安心して払い出すという中材部門の大きな役割である。小林ら¹⁾は「滅菌を確実にを行うためには、洗浄を十分に行うことが最重要課題となる。」「洗浄効果を定期的に点検する必要がある。」と、洗浄の大切さについて述べており、洗浄評価インジケータを用いて客観的評価を行う病院も多くなっている。

鳥取医療センター（以下、当院）は3年前に現場での一次消毒・洗浄を廃止し、中材で再使用物品の一括洗浄を行っている。しかし、洗浄評価は主観的な目視に頼っており、インジケータを用いての客観的評価は行っていない現状がある。そこで今回、現在行っている方法で適切に洗浄できているか検証することを目的に、直接的評価インジケータ（アミドブラック 10B）、間接的評価インジケータ（ピュアチェック）を用いて鋼製小物の洗浄評価を行った。洗浄効果の検証ならびに中材における洗浄方法の見直しにつなげることが出来たので報告する。

研究目的

中材での洗浄工程が適切であるか検証する。

研究期間

2007年12月20日～2008年1月31日。

研究方法

1. 間接判定法（ピュアチェック）を用い、洗浄装置（ウォッシャー・ディスインフェクター、以下WDと記す）の不具合をチェックする。
2. 血液を付着させた鋼製小物（鑷子、鉗子）に予備洗浄剤を散布し、回収頻度別（1日目、2日目、3日目、6日目）に分け、直接判定法（アミドブ

ラック 10B）を用い清浄度を評価する。

3. 現在当院で行っている鋼製小物の洗浄方法は、①現場から回収した後、直接WDに入れ洗浄する。②血液の付着が著明な物は、ブラッシングし洗い流してWDを用いる。という2種類の方法をとっているが、①の方法の結果により、②の方法を見直すことが出来ると考え、今回は①の方法で洗浄・評価を行う。
4. 条件を一定にするため、使用する器具は新しい物を用い、予備洗浄剤のスプレー回数は3回とする。

結果

回収頻度別（1日目、2日目、3日目、6日目）に分けた摂子、鉗子に血液を付着させた後、予備洗浄剤を3回スプレーし、現場から回収した物品に混入させ、WDの中段にバスケットを置いて洗浄を行った（図1）。



図1 洗浄前の状況

1. 直接判定法結果（表1）

表1 各物品の洗浄結果

	洗浄状況	1日目	2日目	3日目	6日目
鑷子 計 68 本	洗浄良好	20 本	13 本	18 本	17 本
	洗浄不良	0 本	0 本	0 本	0 本
鉗子 計 19 本	洗浄良好	3 本	2 本	7 本	4 本
	洗浄不良	1 本	1 本	0 本	1 本